

事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「持続可能なサニテーションシステムによる環境リスク、健康リスク管理に関する研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人 北海道大学大学院工学研究院 教授 船水 尚行

2-2. 中国側研究代表者:西安建築科技大学 環境与市政工程学院 教授・副学長 王 曉昌

3. 総合評価: A

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

自ら計画・設定した3つの課題に対して、十分な成果が得られており、特に原著論文、口頭発表などの日本側の業績が多い。日本が方法論の開発、中国側がフィールドの提供と適用性の検討という役割が明確である。

しかし、両国の研究者による共著が一編のみであり、日本の国際研究の色彩が濃く、フィールドの提供を除いて、本事業に対する中国側の貢献が見えない。十分に共同研究という形をなしていない点が残念である。

(2)交流成果の評価について

若手中心の活発なシンポジウムを毎年開催し、若手の育成を図り、シンポジウムなど当初予定より多く開催され、交流は十分行われた。なお、日本の若手研究者の短期調査はあったが、長期派遣がなかったことが残念であった。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

日本単独での成果は十分だが、今後、これらを中国側で展開し役立てるために、締結した学術交流協定を活かした活発な交流を期待したい。